

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成26年5月15日(2014.5.15)

【公表番号】特表2013-527890(P2013-527890A)

【公表日】平成25年7月4日(2013.7.4)

【年通号数】公開・登録公報2013-035

【出願番号】特願2013-504336(P2013-504336)

【国際特許分類】

E 0 5 B 1/00 (2006.01)

A 6 1 L 2/18 (2006.01)

A 6 1 L 2/10 (2006.01)

【F I】

E 0 5 B 1/00 3 1 1 G

A 6 1 L 2/18

E 0 5 B 1/00 3 1 1 E

E 0 5 B 1/00 3 1 1 P

A 6 1 L 2/10

【手続補正書】

【提出日】平成26年3月28日(2014.3.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

上部カバー成形部 1 9 は、上部フランジ 1 7 の下方に嵌合され、上記と同様に、凹部 5 9 内へのタング 6 0 の係合によりアセンブリ 3 6 / 8 の上端部を規制する。装飾用ストリップ 3 2 の上端部は、カバー成形部の下部リム 6 1 に係合され、リムは、突出部 1 1 を囲むように形成されてタングを収容する。成形部は、凹部 5 9 の後方に 2 つのボス 6 2 を備え、（図示しない）ネジが上部フランジ 1 7 を貫通し、ボス 6 2 内に挿入されて、成形部を固定する。さらに、成形部の 2 つの十字型スピゴット（栓）6 3 が、上部フランジに形成された孔 6 4 に係合される

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 2】

ドアハンドル 1 0 0 の内側において、液体タンク又は下部タンク 1 2 4 が、リフィルボトル 1 2 2 の下に配置される。液体タンク 1 2 4 は、表示窓 1 1 8 を通してタンク 1 2 4 の中身（たとえば、液状又はジェル状抗菌剤や消毒剤）を見ることができるよう、ドアハンドル 1 0 0 内に設置される。液体タンク 1 2 4 の上部に、リフィルボトル 1 2 2 の蓋部 2 0 0 の開口部 2 0 1 を収容するカラー 1 2 8 が設けられる。カラー 1 2 8 は直立穿孔部 1 3 0 を備え、リフィルボトル 1 2 2 の蓋部 2 0 0 がカラー 1 2 8 に取り付けられると、穿孔部 1 3 0 がリフィルボトル 1 2 2 のシール 1 2 7 に孔を開ける。穿孔部 1 3 0 は、蓋部 2 0 0 の開口部 2 0 1 を貫通する。カラー 1 2 8 は、さらに、開口部 1 3 2 を備え、これにより、重力の作用で、リフィルボトル 1 2 2 の液体をリフィルボトル 1 2 2 の開口部 1 2 6 からタンク 1 2 4 に流入させることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0056】

液体タンク124のカラー128に隣接して、マイクロスイッチ等の電気スイッチ140が設置される。スイッチ140は、ボタン電池等の（図示しない）電源に接続される。スイッチ140及び電池は発光ダイオード（LED）301に電氣的に接続され、スイッチ140をオンにすると、LEDにより下部タンク124が照らされる。他の光源を用いるようにしてもよいし、異なる位置に光源を設置して、下部タンク及び／又は上部タンクの一部又は全部を照明するようにしてもよい。ドアハンドル100にリフィルボトル122を設置すると、リフィルボトル122がスイッチ140に圧力を加えて、スイッチがオンになるように、スイッチ140が構成される。リフィルボトル122が取り外されると、スイッチがオフになる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0066】

図21において、エンドキャップ136は孔150を備え、これによりカラー152に液体を流入させることができる。孔150は、逆止弁135により閉鎖可能である。細長い可撓性チューブ又は管状弾性容器154が、カラー152に取り付けられる。管状弾性容器154は排水装置を形成する。細長いチューブ154は、カラー152の外周面に形成される縁部を介した締まり嵌めによりカラー152に連結される液体注入口158と、中央領域156と、流入口160と、を備える。流出口160は、カラー流出口300の外周面に形成される縁部を介した締まり嵌めにより継手174に連結される。細長いチューブ154はエラストマー（たとえば、シリコン）から形成される。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

可動部分は、可動部分の両側端部に配置されるタング194及び195を用いて、静止位置に保持される。タング194は、キャップ136に形成される凹部に収容される。一方、タング195は、タング194とは反対側の可動部分の端部に位置し、下部部材116のガイドにより収容される。タング194及び195は、可動部分166を固定部分162に向かう方向に動かすことを可能にすると共に、可動部分166が固定部分162から完全に切り離されることがないように構成される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0076

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0076】

図23に示すように、蓋部106を取り外すことにより、リフィルボトル122の上端部があらわれる。図示するように、蓋部は、カバー102に形成された凹部111に係合する可動タング109を備える。蓋部106は、カバー102に対向する側にタング10

9を備え、一方、カバー102は、蓋部106に対向する側に凹部を備える。タング109を動かすことにより、蓋部106を取り外す、及び／又は、適切な位置に固定することが可能になる。たとえば、適切な鍵を用いて、ロック機構108を回すことにより、タング109を操作する。可動タング109は、鍵を用いることなく適切な位置に蓋部106を押し込むことができるように装着されたバネでもよい。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0079

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0079】

ドアハンドル100のカバー102を図示する。図示するように、カバー102は、ドアハンドル100の部材を収容する略U字型の上部102aを備える。カバーの下部102bは、ユーザーがグリップ112を握ることができるように切り取った領域又は凹部領域207を有する。カバーの下部102bは、下部部材116用の開口部206を有する。カバーの下部102bは、さらに、上部支持部材114を収容する開口部208を有する。カバーの上部102aは、ガード104内に配置される領域105を備える。この例では、領域105は、ガード104がカバー102の表面と同一平面を形成するように構成される凹部領域を備える。ただし、この構成は、見た目をよくするという理由によるものである。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0081

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0081】

図示するように、下部部材116は突出部204を備える。第1のグリップ112の（図21に示す）タング195を突出部204に係合させることにより、（図21に示す）可動部分又はトリガー166を（図21に示す）固定部分162に向かう方向に動かすことを可能にすると共に、可動部分166が第1のグリップ112の固定部分162から完全に切り離されることがないようにする。

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0091

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0091】

基部110は、取り付け手段138を用いて、バックプレートの下側水平部分266cに取り付けられる。下部支持部材258は、第2のグリップ252に形成された孔に収容される（突出部204と同様の）突出部246を備える。第2のグリップ252は、セルフタッピングねじ等の固定手段を用いて、下側水平部分266c及び上側水平部分266aの位置で、バックプレート266に固定される。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0099

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0099】

図32に、第4の実施形態におけるドアハンドル100の断面を概略的に示す。ドアハンドルは、以下の相違を除いて、第2の実施形態のドアハンドルと同様のものである。図

3 2において、開口部 1 3 2は、カラー 1 2 8上で開口部 1 3 2に隣接して回動可能に取り付けられるフラップ 3 0 2を備える。フラップ 3 0 2は、コイルばね又はらせんバネ 2 6 8を備え、これに抗して作用するものがなければ、フラップ 3 0 2を押し閉じる。フラップ 3 0 2は、閉位置にある場合に、開口部 1 3 2を閉じて、汚染物質やゴミがタンク 1 2 4に入るのを防ぐ。タンク 1 2 4の上部には（図示しない）排出口が設けられ、液体が開口部 1 2 6を介して流入するのに伴い、タンク 1 2 4から空気を排出させる。フラップ 3 0 2は、閉位置にある場合に、さらに、排出口も閉じる。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 0】

フラップ 3 0 2は、上部タンク又はリフィルボトル 1 2 2の開口部 1 2 6に嵌合するエンドキャップ 2 7 0から伸長するフィラメント 2 6 4によって、閉位置から開位置に動かされる。エンドキャップ 2 7 0は開口部 2 6 2を備え、この開口部 2 6 2により、液体が流出可能になると共に、穿孔部 1 3 0のシール 1 2 7への穿孔が可能になる。リフィルボトル 1 2 2をドアハンドル 1 0 0に取り付けると、フィラメント 2 6 4がフラップ 3 0 2に抗して作用し、フラップ 3 0 2を開位置に動かす。リフィルボトル 1 2 2を外すと、フラップ 3 0 2は、バネ 2 6 8の作用により閉位置に動く。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 18】

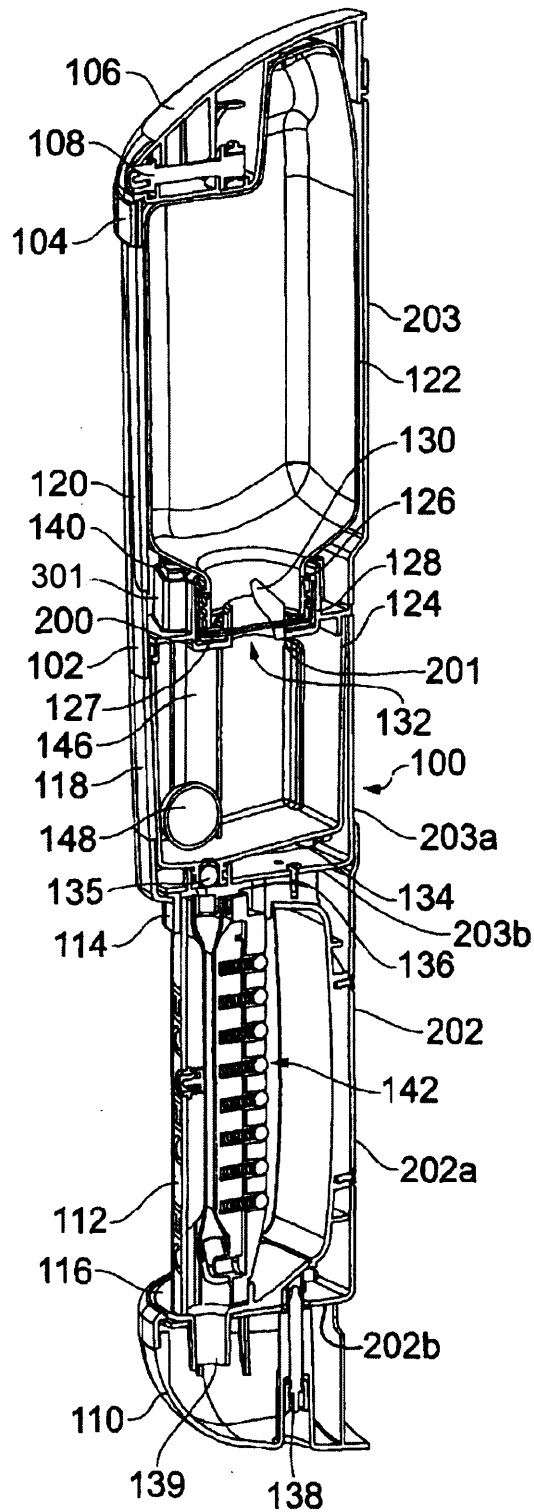


FIG. 18

【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 2 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 2 1】

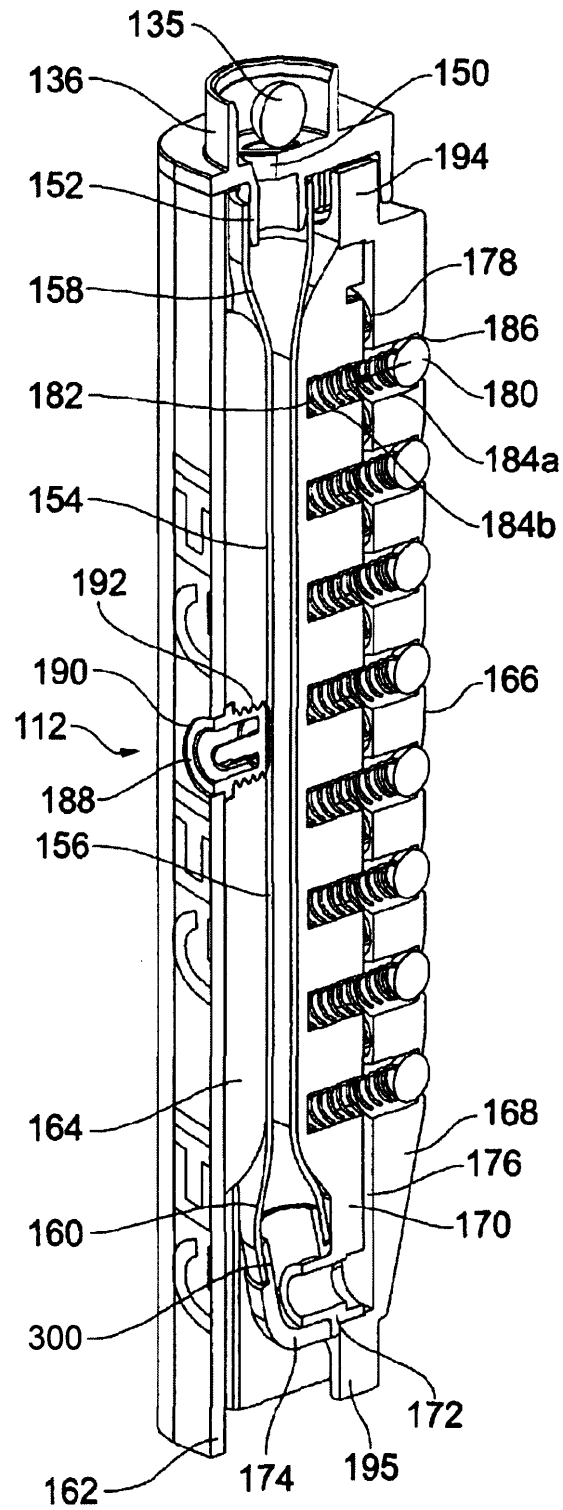


FIG. 21

【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3 2】

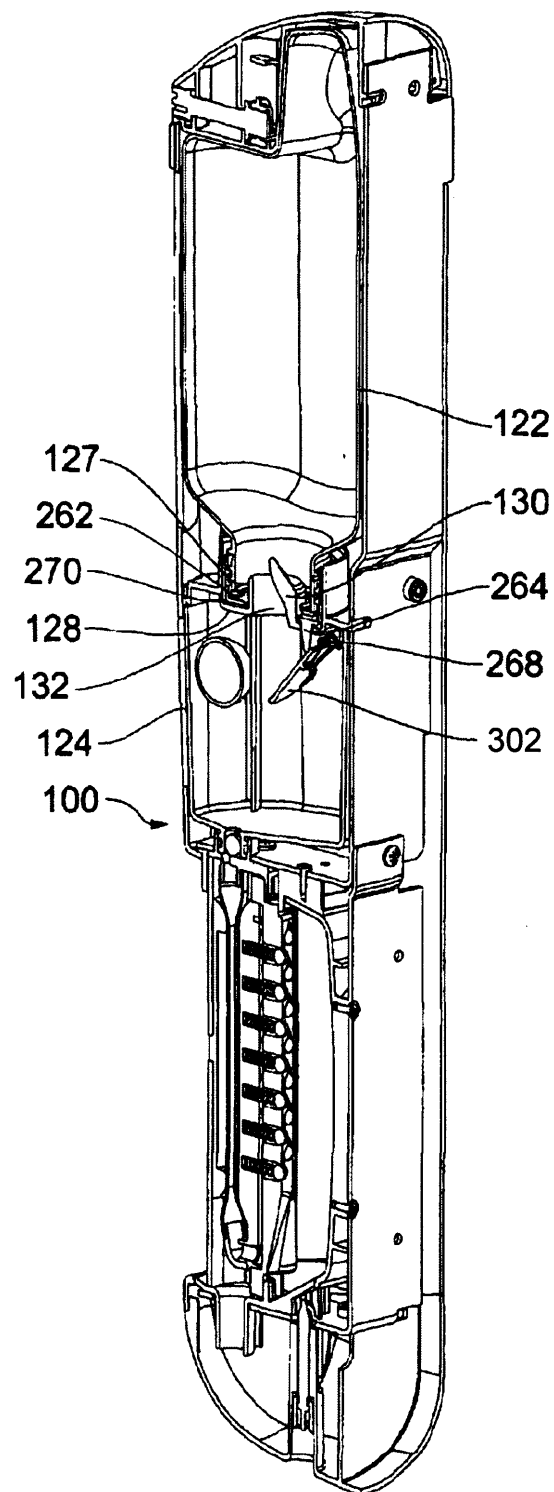


FIG. 32